



国民という宝

Office  
of  
黒田イタケナショナルコンサルティング  
黒田 毅

国民の幸せが、唯一現実の判断である。仔細は、これに準ずるのである。

国家主義が国民を奪うならそれは誤りである。政治はそれを使命とするのである。

一人の国民が不幸であるならば、政治はこれに働かなくてはならない。

これらは第2次世界大戦における国家主義が、今の隷属化した現実を与えたのである。

これは国家がその選択において未来を求めることができるので有り、世界の現実、新世界秩序が完全に支配する世界へ、日の出の国が、自らの理念を掲げ、新しい未来を与えることは必ずできるのである。

これらは全ての虚飾と偽りが世界を支配することへ、その正義と理想を抱き、それら全ての現実へ対峙することは可能なのである。

第3次世界大戦が計画化されることは、アメリカの軍産複合体の最後の祝宴に過ぎないのである。それらへ戦争放棄を抱く日本は、異なる選択を世界へ対峙することができるのである。

世界は今日希望を得ないことは、全ての政治家が周知することである。それならば世界へ希望を与えることは、まさに世界の日の出として、自己を与えることである。

全ての国民の目を見つめるとき、そこに希望はあるのであろうか。それは唯一政治家の使命と責任なのである。